

「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、
平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」

柳本飛行場フィールドワーク特集

5月17日(日)「柳本飛行場フィールドワーク～朝鮮人強制連行と日本軍『慰安婦』をたどる」を催しました。(場所：奈良県天理市)

その日は数日前から天気予報で雨。参加者のパワーでなんとか昼食の時間までは時折明るくなるまで持ち越し、天気予報はなんのその、と思いきや、やっぱり午後からちらほら、時折強く降ってきました。

そんな天候のなかでしたが、リーブ・イン・ピースの初めての試み、フィールドワークは楽しく有意義なものとなりました。

この天候の中、予想以上の30人もの参加者を長時間案内していただいた「奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会」の高野真幸さんに感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。



柳本駅前

フィールドワークは、柳本の駅から高野さんが用意して下さった地図と資料を手にしてスタートしました。



当時の飯場 (現在も住まれている)

『柳本飛行場』というのは通称で、正式には『大和海軍航空隊大和基地』という名の海軍航空基地であり、駅周辺は当時の「海軍施設部」だったそうです。

1943年、「海軍施設部」から飛行場の建設工事に数多くの朝鮮人労働者が動員や強制連行により就労していたこと、朝鮮人女性が「日本軍慰安婦」とされていたことなど、説明をしていただき、現存する当時の飯場へと向かいました。元飯場に現在も住まわれているそうです。トタン屋根の外観はぼろぼろで、人が住んでいると思えないような姿でした。なぜ日本政府はこんな状態のまま放っておくのかと疑問がわきました。

朝鮮人の国語教育所として使われていたところ。
慰安所はこのあたりにあったらしい



それから防空壕へと向かいました。現在、飛行場は一面田畑になっていました。防空壕は、今は物置に使われているようですが、当時は零戦の飛行機無線と交信していた通信司令所であったそうです。

何も無い収穫後の畑の中にポツリとある防空壕、雨の薄暗い景色の中であって、あたりの景色が当時を感じさせるものがありました。

現在の防空壕の中



防空壕（この反対側にもっと大きな壕がありました）

飛行場建設のために用地内に西流する河川の方向を強制的に変え、新たな水路を造ることがされたそうです。

水路を掘ったのは朝鮮人労働者であったと説明がありました。右の碑に川を移したことが掲示されていました。

それから、防空壕から滑走路へとむかいました。





滑走路は二つあり、主滑走路の距離は1500mもあったそうです。現在は、南北に伸びる滑走路の中央部は道路として利用されていました。

1945年2月1日に初めて飛行機の飛来を迎えたけれども、滑走路が土をローラーで固めたただけのものであったため、寒さで霜柱が立ちこめ泥状にならないようにと、竹のすのこを菱形に敷き詰めたとのことでした。

当時の滑走路のコンクリート舗装面が残っており、参加者は腰をかがめて覗いていました。

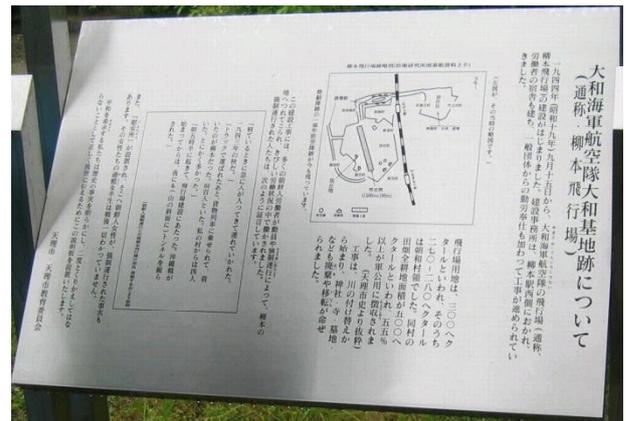
滑走路跡

最後に、高野さんもかかわられたという、戦後50年に天理市と天理市教育委員会によってつくられた柳本飛行場の説明板を設置している場所へ移動し、フィールドワークは終了しました。

説明板には飛行場建設のために朝鮮の人たちが強制連行され働かされたこと、慰安所があり朝鮮人女性が慰安婦にさせられていたことが掲示されていました。新たに板をつくりたいが、今はこのような板をつくることは困難だという、熱のこもった高野さんの気持ちを、参加者がそれぞれに重く受けとめて柳本駅へと戻りました。

柳本飛行場の詳しい資料として、高野真幸さんの本を紹介します。

解放出版社『(幻の天理「御座所」と柳本飛行場』



5月24日(日曜日)

リブ・イン・ピース@カフェで第一回目のフィールドワークについても感想を語りあいました。

引き続き第二、第三のフィールドワークの開催も検討され、候補もあがりました。ここがいい、あそこがいいという場所があればお知らせください。

以下参加された方々の感想を載せました。

天理・柳本飛行場フィールドワークに参加して

5月17日(日)「柳本飛行場フィールドワーク～朝鮮人強制連行と日本軍「慰安婦」をたどる」(リブ・イン・ピース 9+25主催)に参加した。

大阪から何度かの乗換えを経て田舎の無人駅に降り立つと蒸し暑い。晴れ間はこのぞいているものの、終わる頃まではもたないなと誰もが思う曇り空だった。今回の案内役である「奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会」の高野真幸氏が紹介され、30人余りの参加者の下、早速駅前で解説が始まった。資料によれば駅前がかつて「海軍施設部」になっており、まさに降り立った目の前に当時の飯場だった建物が目に入ってきた。少し歩くとすぐ近くに強制連行された朝鮮人の帰国事業の一環として戦後立てられた国語講習所もあった。またこの近くに当時慰安所があったことも同時に紹介された。いまでも住んでいる方がおられるという当時の施設を目の当たりにし、ピクニック気分は吹き飛んでしまった。

奈良らしく(?)古墳上で昼食を済ませた後、いよいよ防空壕と飛行場の痕跡を巡るフィールドワークが始まった。民家を抜けても田植え前の田んぼと休耕田、ビニールハウスが広がるだけかと思いきや、防空壕が姿を現した。降り出した雨の中、雑草茂る防空壕上に上っただけでなんだかタイムスリップしたような感じになった。いったいこの眼下でどれほどの数の学徒と地元民、そして朝鮮人が河川の付け替えや飛行場の建設に動員されたのかと思うと想像を絶してしまう。

そしてビニールハウスのイチゴのほのかな香りと雨にはしゃぐアマガエルを横目にあぜ道を進んで飛行場滑走路跡へ。天理市の名で飛行場に関する説明板が目立たぬところに設置してあった。それは戦後50年を機に設置されたものだが、朝鮮人強制連行と慰安所の存在、不戦の誓いと後世に史実を伝えることを明記した素晴らしいものだった。ここでは高野氏の解説も一段と力が入った。それはこの説明板が粘り強い地元での聞き取りや資料発掘の成果であるからに違いない。参加者皆が高野氏の思いを感じ取っていた。

今は道路になっているが、田んぼとの境界に当時の余りに薄っぺらい滑走路コンクリートの跡を見ることが出来た。また、昼食後に柳本公民館で独自に入手した天理市全図という地図があり、ここには一切飛行場について触れられていない。ところがその地図と頂いた資料の地図を見比べると、その道路の走り方から滑走路の一部が浮かび上がってきた。そこには滑走路の存在というウソのつけない史実があった。

雨の中駅に戻った頃には相当な距離を歩いていて皆口々に「しんどい」「疲れた」と口にしていた。私も同じだった。しかしこの一帯でわずか65年前に起きていたことに想を馳せるのには少なすぎる時間だった気がした。

蛇足だが、早くから天気が悪そうと聞いていて参加しようか迷っていた矢先、熱のこもった雨天決行の知らせを耳にして直前に参加を決めた。現地ですべてのことに触れてみて、参加して本当によかったと強く思っている。

2009年5月17日 Y

参加して、一番こころに残っているのは、飛行場を造るために強制連行・強制労働をさせられた多くの朝鮮人の人達がいた飯場のあとが、今も残っていることでした。一部にボロくなったトタン屋根のような建物が残っていて、そこには今も人が住んでいました。近くに「慰安所」があったという説明を聞き、“ここでもか”という気持ちでした。このフィールドワークは、歴史から何を学ぶかを体感した気がします。高野さん達が奮闘してつくり、のこしてくれた「柳本飛行場」の案内版にも感動しました。本当に有難うございました。

当時飯場だった建物が、今もそこだけ時間が止まっている様に感じました。飛行場の建設に朝鮮の人が強制連行されて働かされた事、慰安所もあった事が書かれていた看板はとても貴重だと思いました。

(TN)

戦争の歴史を掘り起こす、地道で粘り強い活動に頭が下がりました

あいにくの天気でしたが、予想以上に参加者が多く盛況でした。

その副作用で説明がよく聞き取れない場合もあったのは残念でしたが、高野真幸さんはじめ「奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会」の皆さんが、地道に、きめ細かく、丁寧に活動をされてきたのだということが、お話からひしひしと伝わってきました。

最初に駅近くで説明された、強制連行被害者を含む労働者の住居、戦後の国語学校、「慰安所」のあった場所を巡る話など、様々な方から聞き取った話の紹介からもそれは伺えました。

こうした歴史も、それを発掘しようという人々の意識的な活動がなければ、風化し埋もれてしまいます。

そうした地道な活動の成果が結実したのが、飛行場跡の説明板でした。

あまり目立たない場所に設置された小さな説明板ですが、朝鮮人の強制連行や「慰安所」にまで触れた内容には驚きました。市と市教育委員会が連名で設置したものとしては、異例の内容ではないかと思います。

しかもそれが、奈良県天理市というかなり保守的であろうと思われる土地に設置されるまでには、高野さんらの相当に粘り強い働きかけがあったことと思われます。行政との交渉などあまりしたことのない身としては、本当に頭が下がるとしか言いようがありません。

本当は駅前などの目立つ場所に設置したかったが難しかったといいます。

また、設置されたのが95年で、それ以降右翼の攻撃が強まり、今ではこういう内容のものは設置が難しくなっている、ということでした。参考にするため他の地域から見学に来られる方もあるが、同じ内容のものはなかなか作れないということでした。

雨の中、心のコもった案内と説明をしてくださった高野さん、そしてこの企画に参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

リブ・イン・ピース 9 + 25 0

柳本があんなにも重要な場所とは知らず参加しましたが、案内人の高野さんからいろいろと教えていただきビックリしました。天皇を守るためだけの本土決戦に朝鮮人を連行、強制労働をさせたこと、その当時の宿舎が壊れそうになりながらも残っていること、日本軍性奴隷「慰安婦」がいたこと、などなど。天皇の戦争責任を伝えるものがここにはある。どのようにすれば天皇の戦争責任を追及することになるのか考えてみたいと思いました。

飛行場跡地を歩きながらとにかく広いことを実感しました。この広い土地を平らにするため朝鮮人たちは重いローラーを引かされたのだらうと思いながら歩きましたが、その労働のつらさは想像を超えています。

柳本飛行場建設の史実を伝えるプレートの前では高野さんは誇らしげに説明してくれました。プレートに書かれている文章を見てビックリ。天理市のような保守的なところで朝鮮人強制連行も、「慰安所」の存在も天理市教育委員会の名前で載せるほどに高野さんたちの運動が粘り強く、徹底したものであることが想像できます。

高野さんたちのこれまでの運動に敬意を表したい。そして雨の中、一緒に長距離を歩いて説明していただき感謝申し上げます。

(T)

柳本飛行場跡フィールド・ワークに参加して

雨天でも中止せず予定通りやろうという声が多いので雨天決行ということになったと聞いて、「リップ・イン・ピース」の初めてのフィールド・ワークへの皆の意気込みが感じられ、何があってもぜひ参加しようという気持ちになった。幸い昼食までは降らず、また暑くもなく最適な感じだった。

午後から少々降ったが、内容がとても濃かったためか、雨まで趣深く、内容にマッチした感じがした。

高野さんの説明がはじまってすぐに、ピクニック気分ではなくなっていた。強制連行された朝鮮人の家屋。まだ今も居住している人がいるという。天皇が来ることを想定した飛行場づくり。川の流れまで不自然にねじ曲げて。

午後からの二時間半を超える歩きは少々きつかったが、すばらしく貴重な時を過ごせたことの充実感の方がはるかにまさった。雨天の中を30人を超す人が参集したことを、高野さんが喜んでくださったことも、とてもよかったと感じた。

(秀)

・行く前からとても楽しみにしていました。大阪大空襲のことは母からよく聞かされていましたが、日本の加害者としての面を今に残す遺跡を目の当たりにして、とても勉強になりました。天皇の御座所のことなど、まったく知りませんでした。今度は天理の方にも行ってみたいと思いました。それにしても、地道な聞き取り作業を積み重ねて真実を明らかにしてこられた高野さんのご努力には頭が下がる思いです。子どもたちは、終わった直後は「疲れた」を連発していたので、もうこりごりなのかと思ってましたが、あらためて聞いてみると、またこのような機会があれば行ってみたいとのことでした。小さい子の場合、話はわからなくとも洞窟探検のようなことが面白かったようです。私自身も、現地を歩いていたり、防空壕の上に登ったり、身体を動かすことで、忘れられない体験となりました。(S)

天皇による侵略戦争遂行の戦跡 「松代大本営地下壕」、「日吉台地下壕」と並び、本土決戦に備えた大本営跡 = 柳本飛行場

奈良県での朝鮮人強制連行等に関わる資料を発掘する会の高野さん、案内していただき有り難うございました。

私は、1998年10月に、長野市松代の「松代大本営地下壕」と、2000年に横浜・日吉の慶応大学の地下に作られた海軍司令部の「日吉台地下壕」をフィールドワークしていました。高野さんからいただいた資料に「海軍の司令部を日吉から」という文章を見て、「日吉台地下壕」ではないかと思いました。「日吉台地下壕」は1944年に日本海軍がマリアナ沖とサイパン陥落で「絶対国防圏」を失い、海上艦隊内の先頭艦上で指揮を執るべきものを、主要な艦隊を撃沈され、本土決戦に備え、連合艦隊司令部を陸上に上げたものでした。この壕は、側面が総コンクリート作りで、現在では機材はもうありませんでしたが、司令長官室、作戦室、通信室・暗号室などがあり、敗戦までの約1年間実際に機能し、戦艦「大和」の出撃命令や特攻作戦の指示を出していました。私が驚いたのは、この司令部の屋上に展望風呂がついていたことです。当時の状況下、よく風呂に入る余裕があったものだと思います。司令部と天皇が居た皇居の宮中防空室とは有線につながっていました。地下壕と言っても、全面がコンクリートづくりで、それが今作られたと思えるくらいに新しかったので驚いたことを、覚えています。

「松代大本営地下壕」は、本土決戦の指揮中枢を入れるシェルターとして、1944年初め頃に計画され、天皇の御座所や政府の主要機関と日本放送協会（NHK）の海外局などの天皇制国家中枢を移転させようとしていました。同年11月11日から始められた大本営の現場作業は、強制連行や日本各地の工事現場から移された朝鮮人労働者や、勤労働員された日本人があたられられました。朝鮮人労働者は7000人以上動員されたとも言われています。堅い岩盤を発破で爆破するなどのやり方で、昼夜二交替の最も過酷な労働でした。工事の犠牲者は明らかにされていません。地下壕は完成せずに、敗戦をむかえました。私は地下壕を掘った途中のむき出しの岩肌を見て、天皇の生き残りのため、どれほど惨いことをしてきたのか、想像をはるかに超えると思いました。

そして、今回の柳本飛行場は、本土決戦のため、実際に使用し、米軍機とも交戦したと聞き、驚きを越えて、恐怖を感じました。

「松代大本営地下壕」、「日吉台地下壕」をフィールドワークした時、実際に強制連行された朝鮮人や「慰安所」の痕跡に触れることはできませんでした。しかし、今回、錆びたトタン屋根の住居や、「慰安所」があった場所を見て、天皇の侵略戦争遂行の為に、どれだけ多くの強制連行された朝鮮人が労苦を強いられたかということを想像できました。もっと多くのことを今後とも知りたいと強く思いました。フィールドワークに参加して本当によかったです。有り難うございました。

2009年5月24日 KB

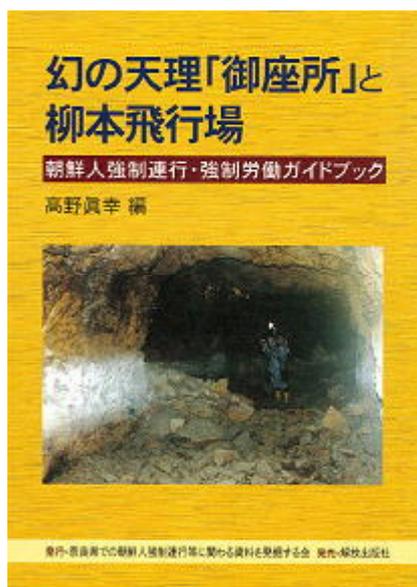
最後に高野さんが、柳本飛行場の説明版のところで、「日本国民が全員玉砕しても国体は残るが、天皇が一人死んだら国体は滅びる、本当にそう考えられていた、天皇制というのはそれほど重要だった」と語っていたのがとても印象に残りました。御座所も、特攻も、強制連行も、慰安所も全て天皇のためだったというのが、理屈ではなく実物として見せられた気がしました。さびたトタン屋根のバラックは、戦後がそのまま放置されてきたのだと思いました。N

ボロボロなトタン屋根の家と天皇の影響の大きさに驚き

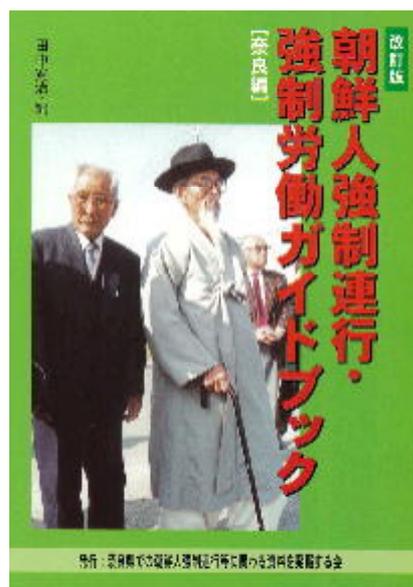
フィールドワークに参加させてもらい、貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。フィールドワークでは、現在も住んでいるというボロボロなトタン屋根の家に驚きと、高野さんのお話を聞く中で、天皇の影響の大きさを感じる事ができました。物資や人手が不足しているだろうのに天皇の手前わざわざ不要なコンクリートありの長い滑走路など非実用的なものを作らせていたのは、天皇が人のための存在ではなく、天皇の強い権威を見せ付け、有無を言わず人を動かすための存在だったのだと考えさせられました。今残る防空壕を見たり登った事も貴重な体験です。「慰安婦」の存在を隠そうとする日本で資料を集め聞き取りを行なってきた高野さんの長年の重い想いや、慰安所や強制連行について書かれた説明板と接することができ、嬉しかったです。

*「ピクニック」という言葉に、気軽に参加することができました。ありがたかったです。忘れないように、知ることをやめないように、今後も参加していきたいです。

2009.5.19. Y.O



幻の天理「御座所」と柳本飛行場
高野 真幸 編



朝鮮人強制連行・強制労働ガイドブック [奈良編]
奈良県での朝鮮人強制連行に関する資料を発掘する会

在日朝鮮人についての認識を覆された一日

私は、在日朝鮮（韓国）人一世、二世、三世を知人に持ち、日本社会と在日社会のはざまで生きる人々と密に関わってきたにもかかわらず、在日朝鮮人＝大阪猪飼野（現生野区）という固定観念を持ち続けてきました。私にとってその認識を覆された思いで一杯の一日でした。

特攻基地として飛行場建設のために朝鮮半島から強制連行された朝鮮人のそこでの作業は、河川改修では、飛行場南端から川の流れを変えて、大和川へ流すための水路を顔中が真っ黒になるくらいまで掘り続けることを強いられました。また大和航空隊に付属するトンネル、戦闘308飛行隊に付属するトンネルの掘削作業も、2月という真冬の時期に行われ、朝鮮人軍夫は薄い薄い作業服で、寒さに血の気を失いながらもスコップで凍った大地に挑んでいったそうです。

一番過酷な労働を、朝鮮人に行わせていたこと、植民地支配下にあったこともあるでしょうが、人としての扱いをされていなかったことが伺えました。

そして戦後、敗戦を迎えた日本から、強制連行されてきた朝鮮人の多くが故郷に帰りましたが、貧しくて故郷に帰れなかった人は、今もなお異国の地である奈良県柳本で生活を余儀なくされることとなりました。今回、目の当たりにした現状は、戦後60余年たった今も、戦前と変わらない暮らしがにじみでていました。例えば、戦前からあった、4、5件ぐらいが1棟になっている長屋が残っていました。そのレンガ色のトタン屋根は塗り替えられることもなく色あせて錆びたまま。今は誰も住んでいないと思われる部屋の窓ガラスは割れたままの吹きさらし。庭先には1960、70年代のタイルの流し台が、無造作に置かれたままの状態。これら生活の貧困さを物語っている状況に胸が詰まる思いで一杯でした。こうした状況、強制連行によって飛行場建設がなされていった実情は、天理市のガイドマップを何冊か手にしましたがどこにも載っていません。ただ一つ天理市ガイドブックの地図にだけ、柳本飛行場跡とあっただけでした。

そんな中で、天理市厚生年金会館横の公園に柳本飛行場の説明板が設置されていました。この説明板では、強制連行と日本軍「慰安婦」制度が実際にこの柳本にも存在したことを明確に記して認めており、天理市教育委員会によって「平和を希求する私たちは、歴史の事実を明らかにし、二度と繰り返してはならないこととして正しく後世に伝えるためにこの説明板を設置します」とありました。私の年代の30代は、在日3世の年代になっています。日本で生まれ、日本語を話し、日本の教育、日本人同様の生活を送り、帰化して日本社会に溶け込んでいく人も多くなり、在日朝鮮人というルーツすら薄らいでいるように思えます。日本人も、戦争体験者が少なくなり、戦後世代も過去の侵略戦争を教えられない人が多くなっているように思えます。過去そして現在も、様々な問題が多くありますが、実際の本物の歴史を日本人、在日朝鮮人が隔たりなく後世に語り継いでいくべきだと思いを新たにしたフィールドワークでした。(N)

4 / 29 キューバツアー報告会に約60名が参加 人間を大事にする社会主義社会と底抜けに明るい人々

4月29日、大阪市の浪速人権文化センターで、3/25～31のキューバツアー報告会が行われました。主催：キューバ訪問団、協賛：ライブ・イン・ピース 9+25。約60名が参加しました。ビデオやスライドショーの手作り報告会で、ポリクリニコ、ラテンアメリカ医学校、オルガノポニコ（都市型農園）・日系人農家・販売所、老人の家訪問と交流などが報告されました。医療や教育などでキューバ社会が人間を第一に考え大事にする社会主義社会であること、国際連帯について、困っている人がいると血が騒ぐというキューバ人気質、そのような人類愛的な連帯意識を生み出していく教育、そして底抜けに明るい人々との交流など、とても有意義な報告会でした。格差をもたらしている兌換ペソと人民ペソの二重経済などキューバ社会が直面する困難についても報告がありました。休憩時にはキューバのお酒のラム酒カクテル、7年物のラム酒などが振る舞われました。また、キューバのお土産や写真も展示されました。



呼びかけ

**海賊対処法の衆院再議決・成立に抗議します。今すぐ自衛艦の撤退を！
脳死臓器移植法の改悪反対のファックスを送ろう！**

詳しくはライブインピースホームページ <http://www.liveinpeace925.com/poverty/ishokuho090615.htm>

リーブ・イン・ピース 9 + 25 のパンフレット

「戦争と女性の人権博物館」起工式に参加して

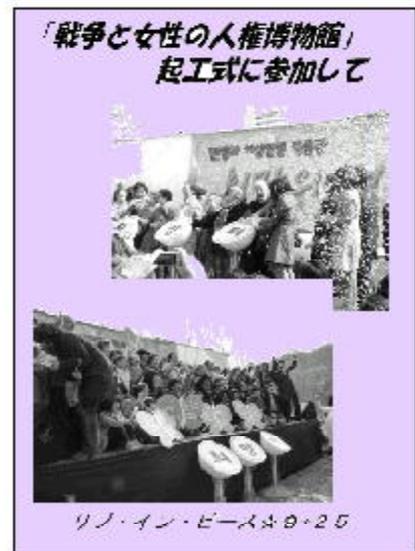
このブックレットは、リーブ・イン・ピース 9+25 のメンバー 3 人が、3 月 8 日に「戦争と女性の人権博物館」起工式に参加した旅を記録したものです。参加者 3 人が韓国で感じたことを、そのまま表現しました。

私たちはこの数年、「戦争と女性の人権博物館」建設のために様々な活動をしてきました。そうした主体的な取り組みが、今回の旅を感銘深いものにしました。

「戦争と女性の人権博物館」建設のためにはまだまだ困難がありますが、その困難は早晚乗り越えられるでしょうし、それはまた日本の運動の課題でもあります。私たちはこれからも人権博物館建設のための取り組みを進めていきたいと思えます。

その事をわたしたち自身が忘れないためにも、このブックレットを作成しました。このつたないブックレットが、人権博物館と韓国の現実に対するあなたの興味を喚起できれば幸いです。

200 円 44 ページ 5 月発行



ガザ大虐殺とイスラエル・アパルトヘイト その「完成」と行き詰まり

2009.6.5.発行 64 ページ カンパ 500 円



これは、昨年末から今年初めにかけて起こったガザ大虐殺とイスラエル・アパルトヘイト体制を批判したパンフレットです。

私たちは、2000 年 9 月末の「第二次インティファダ」がはじまったころから、パレスチナで起こっていることを必死にとらえようと努力してきました。2002 年 3 ~ 4 月の西岸大侵攻のころからは、特に「反占領・平和レポート」という形で、パレスチナの現状と闘いをレポートしてきました。今では 60 号に達しています。パンフレットにはその中から、「リーブ・イン・ピース 9 + 25」のサイトに掲載された最近の 5 本と、これまでに「アメリカの戦争拡大と日本の有事法制に反対する署名事務局」のサイトに掲載された 4 本の論説とを合わせた計 9 本を掲載しています。

パンフレットは 2 部構成で、第 1 部は、08.12.27 ~ 09.1.17 のガザ大虐殺を、第 2 部は、「イスラエル型アパルトヘイト体制」に焦点を当て、歴史的経緯がよくわかるように厳選しました。

このパンフレットが、パレスチナ連帯闘争に貢献することを願うものです。

ご注文はリーブ・イン・ピース 9 + 25 まで

案内 「オレの心は負けてない」 上映会 ～「戦争と女性の人権博物館」建設に向けて～ 7月4日(土)

日時： 7月4日(土) 午後6時半～(開場6時10分)

場所： 夢広場(近鉄布施駅前 ヴェル・ノール5階)

7月5日(日)

日時： 7月5日(日) 午後1時半～(開場1時)

場所： 生野区民センター(JR桃谷駅下車15分)



いずれも

上映協力券：前売800円(当日1000円)

学生(大学生・高校生)

障がい者・高齢者500円

主催：「オレの心は負けてない」

生野・東大阪上映実行委員会

あとがき

今号は柳本飛行場フィールドワーク特集ということで、みなさんからたくさんの感想をいただきありがとうございました。

私ごとですが3月に韓国歴史ツアーにいきました。ことばでは言い表せないのですが、今回のフィールドワークでも、歴史的な観点・日本統治下だったソウル市内の散策で味わった気持ち、と同じ気持ちを感じました。このツアーは「『戦争と女性の人権博物館』起工式に参加して」にまとめています。

次回、次々回に光明池、神武天皇陵・洞村跡地はどうかと考えています。その際には参加の程よろしく願います。(Tama)

発行：リブ・イン・ピース 9+25

(旧アメリカの戦争拡大と日本の有事法制に反対する署名事務局)

TEL 090-5094-9483 (事務局 大阪)

E-mail info@liveinpeace925.com

http://www.liveinpeace925.com/

郵便振替：00910 - 5 - 107564

加入者名：リブインピース

リブインピースの会員、賛助会員を募集しています。

